

令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和 7 年 4 月 17 日（木）

3 調査対象

小学校 第 6 学年（国語，算数，理科，児童質問調査）

中学校 第 3 学年（国語，数学，理科，生徒質問調査）

4 本校の参加状況

① 国語 174 人

② 数学 175 人

③ 理科 172 人

5 留意事項

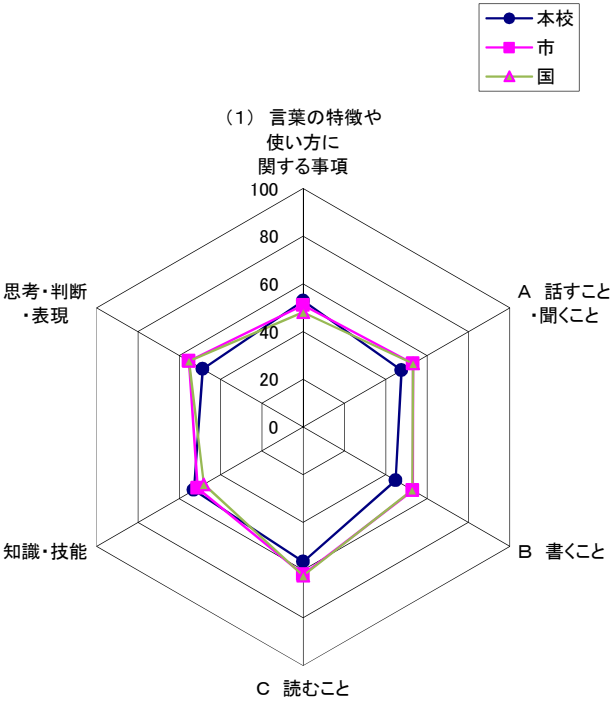
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の 3 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	52.9	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	47.6	53.2	53.2
	B 書くこと	44.8	53.1	52.8
	C 読むこと	56.5	61.8	62.3
観点	知識・技能	52.9	51.1	48.1
	思考・判断・表現	48.7	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

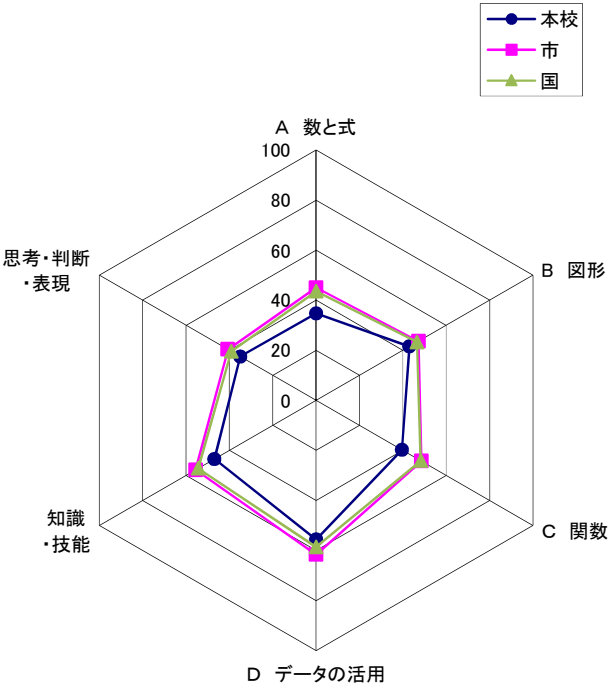
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均を1.8ポイント全国の平均を4.8ポイント上回った。 ○文脈に即して漢字をただしく使えるかを問う問題では市の平均よりも6.7ポイント上回った。 また、事象や行為を表す語彙について理解しているかを問う問題では市の平均を1.4ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく書けるように、意識して練習に取り組続けるように引き続き指導していく。 ・語彙を増やしていくように、タブレットや辞書を利用して意味調べに取り組ませる。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市・国の平均を5.6ポイント下回った。 ●スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを洗濯する問題では市の平均より1.0ポイント、国の平均より1.9ポイント下回った。	・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫した発表になるように取り組ませる。 ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫するよう指導していきたい。
B 書くこと	平均正答率は市の平均を8.3ポイント、国の平均を8.0ポイント下回った。 ●ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する問題では、市・国の平均を4.9ポイント下回っている。 ●ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く問題では、市の平均を8.4ポイント、国の平均を8ポイント下回った。	・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることを意識して文章を構成するよう取り組ませたい。 ・作文の指導において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるよう取り組ませたい。
C 読むこと	平均正答率は市の平均を5.3ポイント、国の平均を5.8ポイント下回った。 ●物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する問題では市の平均を5.4ポイント、国の平均を6.4ポイント下回った。	・表現の効果について、根拠を明確にして読み取りを行わせていきたい。 ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるよう指導していきたい。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	34.7	45.0	43.5
	B 図形	43.0	47.2	46.5
	C 関数	39.6	48.5	48.2
	D データの活用	55.6	61.6	58.6
観点	知識・技能	46.9	55.6	54.4
	思考・判断・表現	35.0	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、全国の平均を8.8ポイント、市の平均を10.3ポイント下回った。 ●素数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が低く、素数の意味の理解が不十分な生徒が多い。 ●数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題では、百分率の理解が不十分である生徒が多い。 ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では無解答率が高く、論理的に考え、表現・説明することに抵抗が大きい生徒が多い。	・基礎的な計算力の向上に重点が置かれ、形式的な処理に視点が向く傾向があるため、言葉の意味や計算の仕組みの理解に重点を置き、それを説明する活動の時間を確保したい。 ・式の意味の読み取りについては、その式の成り立ちの仕組みの理解とそれぞれの項が表すものの読み取りに視点を置き、式を言語化して捉える習慣を身につけさせるため、問題演習を多く取り入れていきたい。
B 図形	平均正答率は、全国の平均を3.5ポイント、市の平均を4.2ポイント下回った。 ●統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題では、正答率が低く、平行四辺形になるための条件を満たす図形の性質を見出すことが苦手な生徒が多い。 ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題では、論理的に考え、筋道を立てて表現することが苦手な生徒が多い。	・図形についての定義や定理、性質などの学習を丁寧に扱い、理解の深化を図りたい。また、複数の図形が取り入れられた問題において、着目すべき視点や要点に気付くことができるよう、問題演習の機会を増やしていきたい。 ・証明においては、論理的に筋道を立てて記述する中で、根拠となる事実を見極めるという複数の思考を同時に進めなければならない。そのため、証明の構造を捉えながら進めることができるよう、手順を視覚化することで思考の補助をしていきたい。
C 関数	平均正答率は、全国の平均を8.6ポイント、市の平均を8.9ポイント下回った。 ●事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題では、全国の平均と比べて正答率が低い。 ●一次関数について、変化の割合を基にyの増加量を求めることができるかどうかをみる問題では、変化の割合と増加量の関係の理解が不十分である生徒が多い。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題では、無解答率がとても高い。	・関数関係にある2つの事柄を捉えることが苦手な傾向があるため、問題を扱う際に関数関係を捉える指導に焦点を当て、手順を踏んで問題解決に当たらせたい。 ・変化の割合については、言葉の意味や計算の仕組みを理解している一方で、求めるものの視点が変わったときに柔軟に対応する力が未熟である。関係性の理解を促進できるよう、題材を丁寧に扱っていきたい。
D データの活用	平均正答率は、全国の平均を3.0ポイント、市の平均を6.0ポイント下回った。 ○相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国の平均よりは高かった。 ●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的に説明することができるかどうかをみる問題では、正答率が全国よりも低い。	・資料をもとに分析をし、問題に対する適切な解答を求めることはできても、そこに至る思考や判断基準を表現することが苦手であるため、理由を述べて説明する活動や記述する活動を増やしたい。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し、「あてはまる」と回答した割合が県の平均を約7%上回っている。本校の教育活動において生徒が活躍する場が多くあることがこの結果に示されていると考えられる。今後も、継続して指導し、生徒の自己有用感を高めていく。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「あてはまる」と回答した割合が全国や県の平均を約9%上回った。これは、生徒たちが自分の将来や社会に対して高い関心を持っていることを示している。今後も、キャリア教育を充実させ、生徒が目標を持って前向きに活動できるよう支援をする。

○「先生は、あなたの良いところを認めたり、褒めたりしてくれますか」という質問に対して、「あてはまる」と回答した割合が県の平均を約3%上回っている。これは、教員が生徒の自己肯定感を高めるための関わりを積極的に行っていることを示している。今後も、生徒一人ひとりの良い点を見つけて声かけを行うことで、安心して学習に取り組める環境を維持していく。

●「授業でICTを活用した学習をどの程度行っていますか」という質問に対し、「ほぼ毎日授業で使用している」と回答した生徒の割合が、県の平均より約20%下回っている。これは、ICTを活用した授業の機会が不足していることを示している。今後は、ICT機器の活用方法を教員間で共有し、授業に取り入れることで、生徒の学習意欲向上と情報活用能力の育成を図っていく。

●「学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対し、肯定的な回答の割合が県の平均を約12%下回った。一方「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という質問に「あてはまる」と回答した生徒の割合は県の平均を約10%上回った。今後は授業において、対話的な授業を取り入れ、相手の考えを尊重し相互に高めあうことができる授業を展開していく。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」という質問に対して、「ほとんどしない」と回答した生徒の割合が、全国や県の平均より約6%上回っている。このことから、本校の生徒は読書習慣が身についていない傾向が見られる。今後は、朝の読書時間の見直しや、生徒の興味を引くような本の紹介を行うなど、読書への関心を高めるための取り組みを進めていきたい。

宇都宮市立陽西中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICTを活用した学習の推進と定着	各教科で、ICT機器を活用した授業を計画・実施していく。生徒が主体的にICTツールを活用できるよう、調べ学習やプレゼンテーション作成などの活動を積極的に取り入れる。また、教員間でのICT活用事例の共有会を定期的に関催し、授業改善につなげる。	「授業でICTを活用した学習をどの程度行っていますか」という質問に対し、「ほぼ毎日授業で使用している」と回答した生徒の割合が、県の平均より約20%下回っている。これは、生徒がICTを活用した学習に慣れていない現状を示している。左記の取り組みを通じて、ICT活用への抵抗感を減らし、学習意欲の向上を図る必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
全国学力・学習状況調査の結果から、知識を問う問題に比べて、自分の考えや意見を記述する問題の正答率が低い傾向が見られた。これは、生徒が知識を習得するだけでなく、その知識を基に論理的に考え、自分の言葉で表現する力に課題があることを示している。	対話的な学びを通じた思考力・表現力の育成	・授業内でのグループ学習やペアワークの導入 ・授業時間を活用し、生徒同士が意見を交換する機会を増やす。これにより、多様な考えに触れ、自分の考えを整理する力を養う。 ・記述式問題の指導強化 ・定期テストや単元テストに記述式問題を増やし、生徒が日頃から文章で自分の考えを表現する練習を重ねられるようにする。これにより、表現力と論理的思考力の向上を目指す。